NEWS RELEASE

立命館大学

2022. 1. 6

報道関係者　各位　　＜配信枚数3枚＞

【立命館土曜講座のご案内】

1 月テーマ：ツーリズム・文化資源・デジタルテクノロジー

1 月 15 日（土）・ 22 日（土）・ 29 日（土） オンライン配信

立命館大学衣笠総合研究機構は、1 月の立命館土曜講座「ツーリズム・文化資源・デジタルテクノロジー」をオンライン（Zoom ウェビナー）で開講いたします。

人文科学研究所が企画する第 3348 回は、「遺産観光（ヘリテージ・ツーリズム）におけるリアリティ」をテーマに、文化遺産（ヘリテージ）を対象とする遺産観光の事例を取り上げ、コロナ以後のヘリテージ体験について展望します。

アート・リサーチセンターが企画する第 3349 回は、「デジタル・アーカイブによる地域文化資源の発見と活用」をテーマに、同センターや文学部京都学専攻などのプロジェクトが取り組んできた、祇園祭や長江家住宅、木島櫻谷旧邸などのデジタル・アーカイブと、それらのデータを利用した研究成果を紹介しながら、地域文化遺産の活用、継承について検討します。

第 3350 回は、人文科学研究所とアート・リサーチセンターの合同企画となり、2 つの発表を予定しています。1 つ目は、一時点の歴史性の保存が難しい、特殊な側面を持つ文化遺産である産業遺産とデジタルテクノロジーの活用について提示します。2 つ目は、江戸時代の伊勢参宮ブームで伊勢に次ぐ寺社巡りの聖地として多くの人々が訪れるようになった奈良が、受け入れ側としてどのような仕掛けで訪問者に対応したのか当時の史料をもとにお話します。

どなたでも無料で受講いただけます。本テーマにご関心のある方のご参加をお待ちしております。

記

開催日時　：　**2022 年 1 月 15 日（土）・22 日（土）　13:00～14:30**
　　2022 年 1 月 29 日（土）　13:00～15:00
開催方法　：　**オンライン（Zoom ウェビナー）**
内　　容　：　別紙参照
聴 講 料　：　無料
定　　員　：　400 人　※実施 2 日前 17:00 までに要事前申込。定員に達し次第、受付を終了。
申込方法　：　立命館土曜講座の WEB サイトよりお申し込みください。
　　http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/kikou/doyokozakikoh.htm
主　　催　：　立命館大学衣笠総合研究機構
そ の 他　：　情報アクセス保障（手話など）については、講座実施日の 10 日前（前週の水曜日）までにご連絡ください。

以上

本リリースの配布先：　京都大学記者クラブ、草津市政記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ

●内容についてのお問い合わせ先
立命館大学衣笠総合研究機構　担当：武田・瀬古
TEL.075-465-8224

別 紙

■立命館土曜講座 1 月テーマ「ツーリズム・文化資源・デジタルテクノロジー」

(1)第 3348 回 「遺産観光(ヘリテージ・ツーリズム)におけるリアリティーコロナ禍の経験を通して問い直す」

日時 ： 2022 年 1 月 15 日(土) 13:00～14:30

講師 ： 甲南女子大学人間科学部 准教授 木村 至聖氏

企画 ： 立命館大学人文科学研究所

内容 ：

リモートワークやオンライン授業にみられるように、コロナ禍は、期せずして社会の DX 化を加速させました。そのなかで、私たちはデジタル技術の新たな可能性を知るとともに、必ずしもすべての体験がそれで「置き換え」られるわけではないことも痛感しました。言うなれば、ヴァーチャルな体験がリアルな体験の価値をあらためて浮き上がらせてくれたのです。しかしその一方で、ヴァーチャルな体験もまた、リアルに対する「偽物」と単純に切り捨てることはできません。そもそもヴァーチャルな体験は私たちの生活にすでに深く入り込んでおり、両者を切り分けることはきわめて難しいのが現状だからです。

本講座では、こうしたコロナ禍の経験を踏まえて、リアル(本物)対ヴァーチャル(本物らしい偽物)という表面的な二項対立を越えて、私たちが「本物」と感じる体験とは一体何なのかについて考えます。その一つの手がかりとして、文化遺産(ヘリテージ)を対象とする遺産観光(ヘリテージ・ツーリズム)の事例をとりあげ、「コロナ以後」のヘリテージ体験というものを展望したいと思います。

(2)第 3349 回 「デジタル・アーカイブによる地域文化資源の発見と活用」

日時 ： 2022 年 1 月 22 日(土) 13:00～14:30

講師 ： 立命館大学文学部 特任助教 佐藤 弘隆

企画 ： 立命館大学アート・リサーチセンター

内容 ：

日本を代表する歴史文化都市である京都には、有形・無形の地域文化が数多く残されています。これらは、研究はもちろんのこと、地域のまちづくりや観光にも活用でき、都市の文化的な価値や魅力を高める貴重な資源として重要です。しかし、このような地域文化資源は、必ずしも皆さんの目に触れられ、活用できる環境にあるとは限りません。地域に残された大多数の文化資源は、公開や活用どころか、整理・保管するのがやっとであり、居住者の入れ替わりや高齢化のため、散逸の危機にあるものも少なくありません。

本講座では、本学アート・リサーチセンターや文学部京都学専攻などのプロジェクトのなかから、講師が中心となって取り組んできた、祇園祭や長江家住宅、木島櫻谷旧邸などでのデジタル・アーカイブと、それらのアーカイブデータを利用した研究成果を紹介しながら、地域文化資源の活用、継承について検討します。本講座が、参加者のみなさんにとって新たな地域文化資源を発見し、活用していくための契機になればと考えます。

(3)第 3350 回

日時 ： 2022 年 1 月 29 日(土) 13:00～15:00

企画 ： 立命館大学人文科学研究所、立命館大学アート・リサーチセンター

司会 ： 立命館大学衣笠総合研究機構 人文科学研究所長 遠藤 英樹

発表①「ツーリズムが求める産業遺産の歴史性とデジタルテクノロジー」

立命館大学文学部　准教授　山本　理佳

内容　：

文化遺産は、価値があるとされる時点の歴史性を保存・保護するものと位置づけられていますが、本講義で対象とする産業遺産とは、さまざまな理由で「変化」を宿命づけられていて、一時点の歴史性の保存が難しい、特殊な側面をもつ文化遺産です。これに対し、観光の現場では、それほど厳密な歴史性を求められないことが多く、要は人々がそこに歴史的な何かを感じ、そこに満足感が得られれば成立します。すなわち、産業遺産の特殊性は、そうした観光の創造的な面とうまく適合する可能性を持っています。ただその一方で、崩壊のリスクがあるなど、観光の現場と折り合わない側面も持っています。特にそうした可能性や制約の面を補うものとして期待されているのがデジタルテクノロジーです。

本発表では、そうした産業遺産の特殊な性質や制約について取り上げるとともに、そこにデジタルテクノロジーがどう活用されようとしているか、その現状について提示したいと考えています。

発表②「文化資源から見たツーリズム～小型案内記・絵図から見た江戸時代の奈良半日観光」

立命館大学アート・リサーチセンター　国際共同利用・共同研究拠点リサーチアシスタント　安宅　望

内容　：

永禄　10(1567)年、東大寺の大仏と大仏殿は兵火に見舞われまたもや灰燼に帰してしまいました。応急修理を受けた大仏は露座となり、130　年近く風雨に晒されてきました。その後、江戸時代の安定した世の中で大仏と大仏殿再建の機運が高まり、公慶上人の努力により宝永 6 年(1709)年に大仏殿落慶法要が行われ、現在の私たちが見る大仏と大仏殿が完成しました。そして、折からの伊勢参宮ブームにより多くの訪問者を受け入れることになった奈良は、伊勢に次ぐ寺社巡りの聖地となりました。

本発表では、受け入れ側の奈良がどのような仕掛けで訪問者に対応したのかを当時の史料を基にお話します。出来るだけ多くの名所を限られた時間で余すところなく見物したいというのは、古今東西変わらぬ旅行者の気持ちです。それを受けて江戸時代の奈良の人々が考えた「見て感じてもらいたい奈良」がどのようなものであったか、そしてそれをどのように伝えたかをお話したいと考えています。

■立命館土曜講座について

1946　年から続く、市民向けの無料公開講座。故・末川博名誉総長の「学問や科学は国民大衆の利益や人権を守るためにある。学問を通して人間をつくるのが大学であり、大衆とともに歩く、大衆とともに考える、大衆とともに学ぶことが重要」との思いのもとに、大学の講義を市民に広く開放し、大学と地域社会との結びつきを強めることを目指しています。

WEB サイト：　http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/kikou/doyokozakikoh.htm